

チャバネセセリといえば、イチモンジセセリに似た茶褐色のセセリチョウで、その和名にも違和感がなく、オレンジ色調のセセリに対するキマダラセセリ、ヒメキマダラセセリという和名も素直に受け入れられる。ところが、オレンジ色なのにチャバネセセリと名付けられたちょっと納得しがたいのがスジグロチャバネセセリとヘリグロチャバネセセリだ。しかもこの2種はとてもよく似ていて、野外で観察するだけではどちらなのかを容易には判別できない。両種ともに幼虫が主にイネ科植物を食草としていて、樹木と草原が入り混じった環境に生息する点も共通している。日本での生息分布は、本種が北海道から本州で近畿地方では兵庫県西部だけと分布が限られるが、ヘリグロチャバネセセリはさらに四国、九州にまで広く分布しているようだ。

筆者にとってスジグロチャバネセセリは2008年8月19日、入笠山のアカツメクサやヒヨドリバナが咲く標高の高い草原で捕獲したのが種として初めて確認した記録となっているが、北海道の草原で何度か目にしていたはず。総じてセセリチョウの仲間は体が小さく、標本化目的に捕獲してもネット内で激しく暴れ、下手をすると背中部分の細毛がはがれて標本価値がなくなってしまう。そのせいでセセリチョウの仲間に対する関心が低くて標本も乏しく、せめて写真記録で残そうかという対象となっている。それなのに2008年の入笠



山ではまともな撮影記録がとれず、2013年8月、松本市扉峠でようやく花を訪れた個体の

記録が撮れた。とはいえ、裏面だけでは種を特定できなく、ビデオ撮影のフォーカスが甘い飛行時静止画像でかろうじて翅表を観察で



きる。前翅外縁の黒帯幅がほぼ一定であることからスジグロチャバネである可能性を指摘できるが、ヘリグロチャバネとの決定的な区別のためにネットインをし、前翅表面中室外方の黒斑が第4室の上縁および基部に侵入することを確認して初めてスジグロチャバネであると同定できた。

今後、セセリチョウの仲間については、難しい展翅標本ではなく、種の同定に有効なアルバム形式の標本化を充実させていくこととしたい。